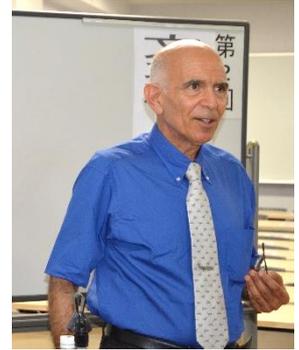


2020年度文系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

新型コロナウイルス COVID-19 の感染拡大に伴う措置により、高等学校における学習活動が制限されていましたが、6月より通常の学習活動が再開されたことを受け、6月17日（水）に福祉健康科学部の Raymond Langley 先生を講師に迎え、「脳と記憶と効果的な学習」というテーマで、今年度の初回となる文系チャレンジ講座の第2回を実施しました。遠隔配信した中津南、安心院、国東、別府翔青、大分西、大分商業、大分鶴崎、白杵、三重総合、竹田の12校413名が受講しました。



先生は「海馬」の役割を中心に記憶の種類や効果的な記憶方法について講義を行われました。

記憶には、短期記憶と長期記憶の2種類があり、脳の「海馬」と呼ばれる部分には、短期記憶を長期

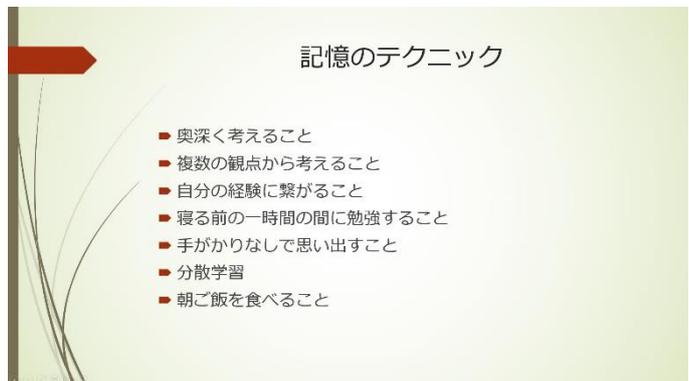


記憶に変える働きがあることを説明されました。そのため、海馬がなくなると、IQや短期記憶はあっても、長期記憶になることはなく、新しいことが記憶されることがないことを、実話であるH.Mさんの悲劇とともに説明されました。骸骨先生(模型)を用いた海馬の位置や形の説明がとても分かりやすく、生徒も興味津々でした。

また、クラスをA・Bのグループに分け、先生が読み上げられた単語を聞き、それぞれ「この言葉には「い」という言葉がありますか?」、「この言葉は感じのいいものですか?」という質問に答えていき、最後

に先生の読み上げた言葉をどのくらい覚えているかを尋ね、Bのグループが覚えている単語が多いことから、記憶するときには表面的な特徴を捉えるのではなく、その言葉について奥深く考える必要があることを証明されました。そのほかにも、複数の観点から考えることや寝る前に勉強すること、分散学習などを記憶のテクニックとして挙げておられました。

受講した生徒からは「分散学習が最も効果的な教科科目は何か」「分散学習はどの程度の間隔で行うがよいか」「就寝前の学習が効果的なのはなぜか」といった良い視点の質問が出され、先生も授業の効果に満足された様子でした。



先生も授業の効果に満足された様子でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(100%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(100%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(86%)、「映像はよく見えた」(91%)という結果が出ました。

